

第3学年 音楽科学習指導案

児童 3年A組 28名
指導者 市原 由記
林 千幸

1 題材 打楽器の音色やリズムを感じ取ろう

2 題材の目標

- (1) 打楽器の音色の特徴に気付き、それらが生み出すよさや面白さなどを感じながら音楽をつくる。
- (2) 音を音楽へと構成しながら、まとまりのある音楽をどのように作るかについて、思いや意図をもって表現する。
- (3) 打楽器の音の響きや組み合わせに興味をもち、友達と協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、進んで学習に取り組む。

3 題材について

(1) 児童の実態

本学級は明るく元気な雰囲気、音楽の学習に興味・関心が高く意欲的に取り組む児童が多い。音や音楽に合わせて体を揺らしながら歌うなど日常生活の中でも音楽を楽しんでいる。また、教室に打楽器を置きいつでも手に触れられるようにすることで、休み時間になると好きな楽器を手に取り、打楽器の音を楽しんだり、CDをかけて友達とリズムを合わせたりと楽器を楽しむ姿もよく見られる。1学期に行った2つの音楽づくりでは、自分たちのイメージにあった音楽を試行錯誤しながら楽しんでつくることができたが、構成のまとまりを意識するまでにはいたらないグループもあった。

(2) 教材について

関連器楽教材 「ミッキーマウスマーチ」

児童にとって身近な音楽であり、ミッキーの元気なイメージがしやすい楽曲となっている。音の響きのバランスに気をつけながら、まとまりのある合奏ができるようにしたい。

音楽づくり教材 「音のひびきや組み合わせを楽しもう」

本教材は、木、金属、皮など、それぞれの材質がもつ音の響きや特徴に気付きながら、即興的に表現する活動を通して音楽づくりの発想を得ることや、6つのリズムパターンに基づいて表現する技能を身に付けることができるようにすることをねらいとしている。

(3) 指導にあたって

本題材では、楽器の材質ごとの特徴を意識し、音の高さ、長さ、音色などの音の響きを打ち方や打ち場所を変えて様々に試していくなかで、木でできた打楽器は音が長く響かないことや、打つ場所や使うばちによって音色が変わることなどの子どもの気付きや考えを生かせるように働きかけていく。

活動の後半では、自分が選んだ楽器と提示されているカードとの関わりを考えながら活動することができるように、材質ごとの音の響きを丁寧に確かめたり、様々な音を表現することができるように試したりする活動を充実させる。そして、つくった音楽は校内音楽会で発表することを提案し、学習への興味・関心を高めたい。

本時は、「もっとあそぼう」の音色や強弱を工夫してまとまりのある音楽をつくる発展の時間である。グループで、つなげ方や重ね方を考えて試しながら、はじめ、なか、おわりを意識して音楽づくりを行っていく。「ミッキーマウスマーチ」をもとにし、つくりたいイメージを膨らませやすくすることで、思いや意図をもって打楽器でまとまりを意識した音楽をつくるできるようにしたい。さらに、音楽づくりの学習で学んだことを発表したり、歌唱や器楽合奏の表現に生かし、音色や強弱などを工夫し仲間とともに表現していく楽しさを味わわせたいと考えた。また、お互いに聴き合うことを振り返り活動として意図的に設定し、イメージによって曲想が違うものになることに気づかせていきたい。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの楽器の音を聴き、音を合わせて演奏する技能を身に付けている。(器楽)</p> <p>②[知] 打楽器の音の響きやそれらの組合せの特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて気付いている。(音楽づくり)</p> <p>③[技] 思いや意図に合った表現をするために必要な、音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。(音楽づくり)</p>	<p>思① 音色や音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)</p> <p>思② 音のつながりや重なりを感じ取りながら、始め方や終わり方、強弱や速度を工夫し、音を音楽に構成するための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(音楽づくり)</p>	<p>態① 音の響きや組み合わせを生かして表現することに興味を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。(器楽、音楽づくり)</p>

5 指導と評価の計画

次	時	教材	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	評価規準 ◆評価方法			要素
				知・技	思	態	
一 次	①	ミッキーマウスマーチ	◎イメージをもち、音の重なり楽しさを感じ取って演奏する。 ○主旋律を知る。 ・楽器を選び、個人やグループで演奏する。	[技] ① ◆演奏聴取	[思] ① ◆演奏聴取	[態] ① ◆活動観察 ◆演奏聴取	音色
	②		○楽器ごとのグループで演奏する。 ・リズムや音の重なりバランスに気をつけて演奏する。				
	③		○イメージに合う表現を工夫する。 ・リズムや音のバランスを工夫して楽しんで演奏する。				
一 二 次	④	音のひびきや組み合わせを楽しもう	◎楽器がもつ音の響きや特徴に気付きながら、表現する。 ○打楽器を仲間分けし、音を確かめたり、表現したりする。 ・同じ材質のグループでリズムカードをつないで演奏する。 ・打楽器の材質ごとの音色の違いを感じ取る。	[知] ② ◆活動観察	[思] ② ◆活動観察 ◆演奏聴取	[態] ① ◆活動観察 ◆演奏聴取	強弱 速度 音の重なり
	⑤		○グループに分かれてリズムカードをつなげたり、重ねたりしていろいろな打楽器で演奏する。 ・リズムに合う楽器の種類を選ぶ。 ・リズムカードに描かれた強弱に気を付ける。				
	⑥		○グループでイメージに合う音楽をつくる。 ・イメージに合う楽器を選ぶ。 ・音をつないだり、重ねたりしながらイメージに合う音楽をつくる。				
	⑦ (本時)		○グループでまとまりのある音楽をつくる。 ・強弱や速さに気を付けて演奏する。				
	⑧		○グループごとに、さらに工夫して発表し合う。 ・お互いの発表を聴き合い、よかったところを伝え合う。				

6 本時の学習

(1) 目標 強弱や速さを工夫して、思いや意図をもって表現する。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	◇評価規準◆評価方法	要素
1 本時のめあてをつかむ。	○前時を振り返り、本時のめあてを確認させる。		
イメージに合った音楽を工夫しよう。			
2 グループごとに表現の工夫をする。	○実際に楽器を演奏することを繰り返しながら、イメージに合った音楽になってきたかについて話し合わせ、音のバランスや表現を工夫するよう助言する。 ○強弱や速度などの工夫をしながら、まとまりのある音楽をつくるよう支援する。	◇思・判・表② ◆活動観察、演奏聴取	強弱 速度
3 グループの音楽を聴き合う。	○意図的にグループを選び、発表させる。 ○友達の表現のよさに気づき、自分の表現に生かすことができるように、イメージに合っているかどうかなどの聴く視点を提示する。		
4 本時の学習を振り返る。	○イメージに合った音楽ができたかどうかをグループで振り返らせる。 ○校内音楽会への意欲付けをする。		

(3) 評価および指導（手立て）

「十分満足できる」と判断される具体的な状況	<ul style="list-style-type: none"> ・打楽器の音の響きに合わせて音楽のイメージを膨らませ、それに合う強弱や速度を工夫し、意見を伝えたり表現したりしている。 ・イメージに合った表現ができたことを実感し、そのよさや面白さについて感想をもっている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の音をよく聴いて、強弱や速度などを模倣するように助言する。 ・自分が打つ場所が分かりやすいように、図形楽譜に名前を書き込んだり、演奏する回数を予め決めておかせたりする。